



石動山 山岳信仰の拠点霊場として栄えた。開山には諸説あり、方道仙人や泰澄大師らが関係したとされる。泰澄大師が開山したという伝承に基づくと、昨年は1300年の節目だった。



(磯野翔平)

# 仙人 天まで登る

天に向かって伸びるブナの木の間に、ひっそりと行者堂がたたずむ。かつて多くの修験者が己の身を磨いた中能登町の「石動山」。信仰の地として一大勢力を誇った威厳を今に伝えている。

石動山は白山や立山と並ぶ霊山として全国に名をはせた。中世の最盛期には360余坊に約3千人の衆徒がおり、修験道を通った先にある落差約20㍍の不動滝での水行や、講堂での祈禱などに励んだとされる。南北朝や戦国時代などの数度の焼き打ちに加え、明治の廃仏棄釈で山内の行者堂は旧鹿島町最勝講に移さ



最盛期の石動山の様子を描いた町文化財「紙本著色石動山境内古絵図」の模写 ー石動山資料館

## 「能登」の名の由来

れ、山岳信仰の拠点「大宮坊」は一度消滅した。平成に入り、行者堂は元の地に戻され、大宮坊は復元された。「逆境を乗り越えて再興した山。地元住民の『心の山』とでも言いましょうか」。能登國石動山を護る会会長の高柳光明さん(71)は誇らしげに語る。

能登の民俗に詳しい真宗大谷派西勝寺(珠洲市)住職の西山郷史さん

(71)によると、石動山古縁起には、今年で立国1300年の「能登」の名の由来が記されている。インドから来たとされる方道仙人が皇子の病を治し、自身の役割を果たしたとして石動山から天に登ったことから「能く登る」土地として「能登」の名が付いたという。

修験者が持ち込み、株が増えたとされる町花「石動山ユリ」など豊かな自然に覆われた山内の伊須流岐比古神社には、万病に効くとされる「イワシガ池」があり、休日には町内外から多くの住民が水をくみに集まる。歴史の物語を紡いだ山は今も「まればと」を招き続けている。